☆稲荷山のつつじまつりを知ってる？

稲荷山見晴台と稲荷山斜面緑地を会場に、「稲荷山のつつじまつり」が開催されます。

お囃子、バザー＆クラフトキッズ無料プラネタリウム、ヤマツツジの苗木配布といったアトラクションが行われるほか、狭山のさといもコロッケ”や手作りなどの各種模擬店が出店されます。狭山市のマスコットキャラクター「七夕の妖精おりぴぃ」と記念写真も撮れます。

さわやかな新緑の季節に映える色鮮やかなつつじと、まつりのにぎわいを楽しみに、ぜひお出かけください。

☆狭山茶を使った特産品って何かある？

日本で茶が伝わったのは、800 年ぐらい前の事です。国へ行ったお坊さんが、茶の種を持ち帰り蒔いたのがその始まりと言われています。しばらくたって、いまの川越（河越）に茶を植えたのが「狭山茶」の始まりです。“色は静岡、香りは宇治よ、味は狭山でとどめさす”と「狭山茶摘み歌」にも歌われます。

狭山茶は茶産地としては北限であるため、年間 2 回の摘採で秋から冬にかけて茶樹を十分休ませることができます。このことによって茶葉の厚さが増し、狭山茶の特色であるコク味につながっています。

仕上加工（二次加工）は古来より“狭山火入れ”と称される独特の火入れ技術が生かされています。

狭山茶を使ったアイディア商品（特産品）

- ●狭山煎茶チョコレート・・100％茶使用
- ●狭山抹茶「明　松（みょうしょう）」・・「さやま大茶会」で使用
- ●さやまっ茶プリン
- ●狭山茶ラテ

☆オナガってどんな鳥？

●市内に一番多く見られ、林の中に群れをなしています。庭園や人家付近の立木に見られます。尾の長い姿や色が優美なところから市の鳥と決まりました。

●オナガドリの特徴

- ・全長 37cm　　**オス・メス同色**
- ・頭部が黒く、目の下から白い
- ・背中が灰色、尾羽が長く、翼は青い
- ・カラスの仲間で鳴き声は「ゲエー、ゲエー」
- ・不老川で見られるらしいです。
- ・雑食　（木の実・果実・虫など）パンも食べるらしい。
- ・行動は、数羽から数十羽でする。

巣は木の上に枯れ枝集めて卵を産み、5 月から 6 月に子育てするそうです。

大きく長い羽根を「バサバサ」と羽ばたかせ、重たそうに体を浮かせます。ゆったりと飛んでる姿はなんともユーモラスと言われています。

元狭山市市長　仲川幸成氏に市の花･木･鳥について聞く

・稲荷山のつつじ祭りは、それは見事でした。稲荷山の見晴台近くに咲くカタクリの花も、アリが種を運び増やして少しずつ花が見られるようになりました。種を蒔いて花が咲くまで 7 年もかかるそうです。

狭山市駅から、稲荷山への途中に見事なつつじの群集が見られますが、最近は以前より華やかさが消えました。それは、つつじを刈り込んでしまったためだそうです。

現在、ヤマユリも増えています。

・茶の木は、吉野弘氏の「茶の花おぼえがき」より、充分な肥料をくわえると花は咲きません。（木の下の方に咲く）栄養が良いと子孫を残さなくなり、おいしい狭山茶がとれるのだそうです。

・仲川さんを訪ねた日の朝「オナガドリが今朝もゲェーゲェーと鳴いていた」とおっしゃっていました。

☆狭山市が誕生したのは？

元の駅名は「入間川駅」だって知ってた？

昭和 29.7.1　　1 町 5 カ村として誕生

●狭山市は合併により埼玉県で１５番目の市として誕生。

- 昭和 39 年に市内最初の信号機が新富士見橋南側交差点と鵜木交差点に設置。
- 昭和 48 年に韓国の忠武市（現・統営市）と姉妹都市を締結。（外務省を通じてお茶の栽培について相談を受けました。）
- 昭和 49 年に市制施工 20 周年を記念して、市の花・木・鳥も制定。
- 昭和 54 年に、西武新宿線入間川駅が狭山市駅と改称された。

- 平成 16 年には市政施工から 50 周年を迎えた。

市の木・・・茶ノ木

鎌倉・室町時代から銘園 5 場の一つとして市民に愛着。

市の花・・・つつじ

古くから稲荷山のつつじとして親しまれた。

市の鳥・・・おなが

市内に一番多く見られ尾の長く色が優美なところ。

☆狭山茶の歴史

南北朝時代の書物・・・・『異制庭訓往来』（いせいていきんおうらい）に「天下指して言う所」の茶産地の一つとして「武蔵河越」（むさしのかわごえ）が登場します。・・・・江戸時代後期（1800 年代初め）、現在の入間市近在の吉川温添（よしかわよしずみ）、村野盛政（むらのもりまさ）、指田半右衛門（さしだはんえもん）の三人は、試行錯誤を重ねた末、この地域での茶の生産を復興しました。彼らはそれぞれに当時最新の製茶法であった宇治の蒸し製煎茶の製茶を習得し、（1819）には、この茶を商品として江戸へ出荷するようになりました。なかには、最高茶の宇治茶と同じ評価を受けるものもありました。

重闢茶場碑（かさねてひらくちゃじょうのひ）

天保３年（1832）入間市出雲祝神社

碑文には、日本での茶の歴史、武蔵河越茶から狭山茶に至る経緯、復興に尽力した人物、茶の効能、茶づくりに対する心構えがまとめられています。（入間市博物館資料抜粋）

狭山マチ探検

狭山市の花・木・鳥知ってる？

狭山マチ探検

（カラーのマンホール どこにあるかみつけて!!）

市の花・木・鳥をデザインした移しいマンホールです。

狭山マチキ発見「狭山市の花・木・鳥」

発行日：平成 29 年 11 月 1 日

発行：さやま市民大学地域ジャーナル講 4 期生

制作：五味利子

指導講師：澤野久美子

参考資料：狭山市公式ウェーブサイト

http//www.city.sayama. saitama.jp/

狭山の歴史

広報さやまのホームページ

☆こたえ　七夕通り